



株式会社ラック
2025年3月期 第2四半期（中間期）決算説明資料

2024年11月7日

目次

1. 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算概要
2. 2025年3月期 連結業績予想
3. 補足資料
4. 会社紹介

2025年3月期 第2四半期（中間期）決算概要

両セグメントとも伸長し売上高が拡大

来期以降の中長期的な利益貢献に向けたオフィス更改関連の一時費用の計上（前年同期比 152百万円影響）等があったものの営業増益

セキュリティ事業は増収・減益

各サービス、製品販売関連が拡大し増収となったものの、人員増強等の体制強化により減益

SI事業は増収・大幅増益

開発サービスやHW/SW販売などが大きく拡大し増収かつ大幅な増益

売上高・利益とも想定を上回る水準で進捗しつつも

第4四半期偏重の季節要因も鑑みて、通期予想は据え置き

売上高はセキュリティ事業、SI事業の拡大により増収

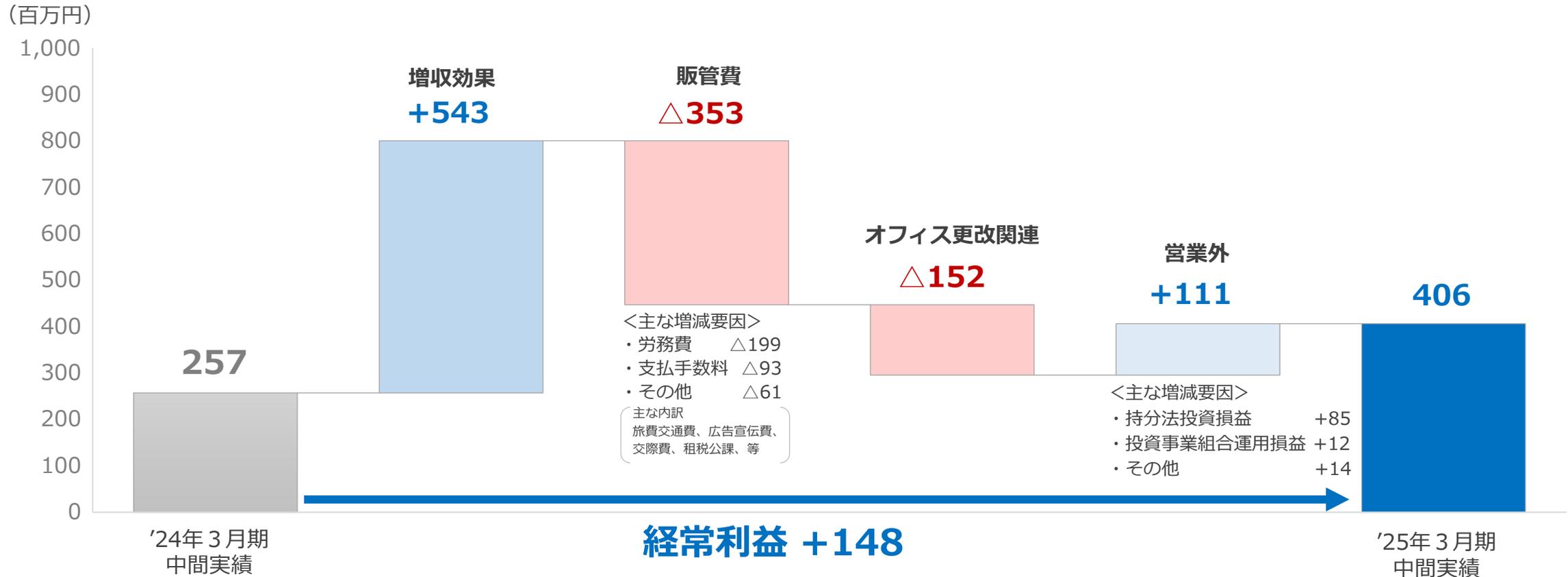
来期以降の中長期的な利益貢献に向けたオフィス更改関連の一時費用計上はあるものの営業増益持分法による投資利益の増加もあり経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益も増益

(百万円)

科目	'24年3月期 中間実績	'25年3月期 中間実績	前年同期比	
			増減額	増減率(%)
売上高	22,648	26,408	+3,759	+16.6
営業利益	314	352	+37	+11.8
営業利益率%	1.4	1.3	△0.1p	-
経常利益	257	406	+148	+57.8
経常利益率%	1.1	1.5	+0.4p	-
親会社株主に帰属する中間純利益	139	263	+123	+88.5

(注) 当社グループの事業の特徴として、特にセキュリティ事業の売上の計上が第4四半期連結会計期間に著しく偏り、中間連結会計期間の業績は低い水準となる傾向があります。

ベースアップ等による労務費の増加やオフィス更改関連費用の計上などがあったものの 増収効果や持分法投資利益の増加などにより経常増益



- (注) 1. オフィス更改関連の費用は、平河町オフィスの減床等を含めた契約更改（2025年3月に賃貸借契約終了予定）に伴う原状回復費の資産・負債計上および既存資産の見積り変更による減価償却費増加分等によるものです。また、販管費に含まれますがグラフでは抜き出して表記しています。
2. 持分法適用関連会社としてKDDIデジタルセキュリティ株式会社、ニューリジェンセキュリティ株式会社の2社があります。

セキュリティ事業は増収・減益、SI事業は増収・増益
全社共通費用は労務費の増加やオフィス更改関連費用の計上などにより増加

(百万円)

売上高	'24年3月期 中間実績	'25年3月期 中間実績	前年同期比	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス (SSS) 事業	9,772	11,070	+1,297	+13.3
システムインテグレーションサービス (SIS) 事業	12,876	15,338	+2,461	+19.1
合計	22,648	26,408	+3,759	+16.6
セグメント利益	'24年3月期 中間実績	'25年3月期 中間実績	前年同期比	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス (SSS) 事業	557	394	△163	△29.3
システムインテグレーションサービス (SIS) 事業	1,663	2,281	+617	+37.1
合計	2,221	2,675	+454	+20.4
全社共通	△1,906	△2,323	△417	-

(注) セグメント利益は、全社共通費用を組み入れる前の事業にかかる販売費及び一般管理費を含めた利益です。

製品販売や診断サービスなどが拡大し増収 人員増強等の体制強化を進めたことにより減益

セキュリティコンサルティングサービス

緊急対応サービス案件の減少はあったものの、体制・対策強化に向けてコンサルティング案件や教育・訓練サービス案件が増加したことなどで増収

セキュリティ診断サービス

主力のWebアプリケーション診断サービスやプラットフォーム診断サービスが好調に推移したほか、潜在的な脅威を調査するペネトレーションテスト案件の拡大などで増収

セキュリティ運用監視サービス

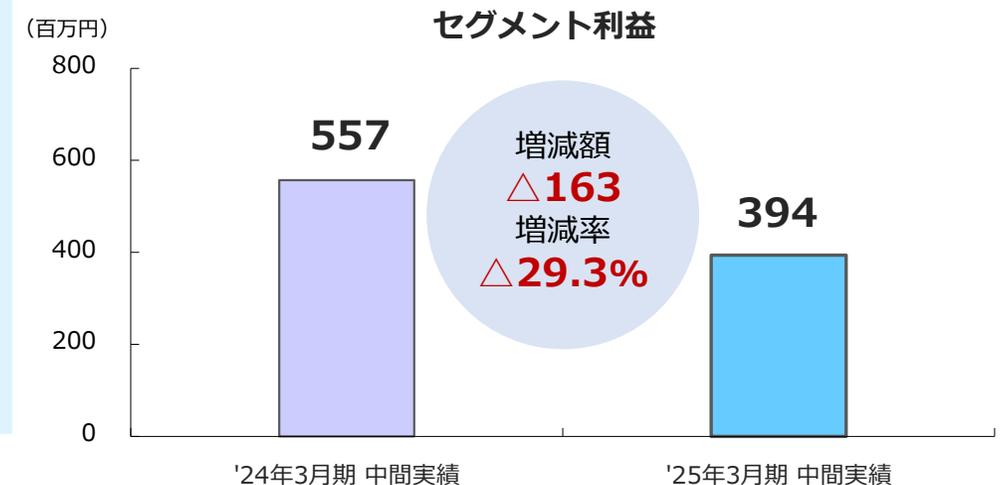
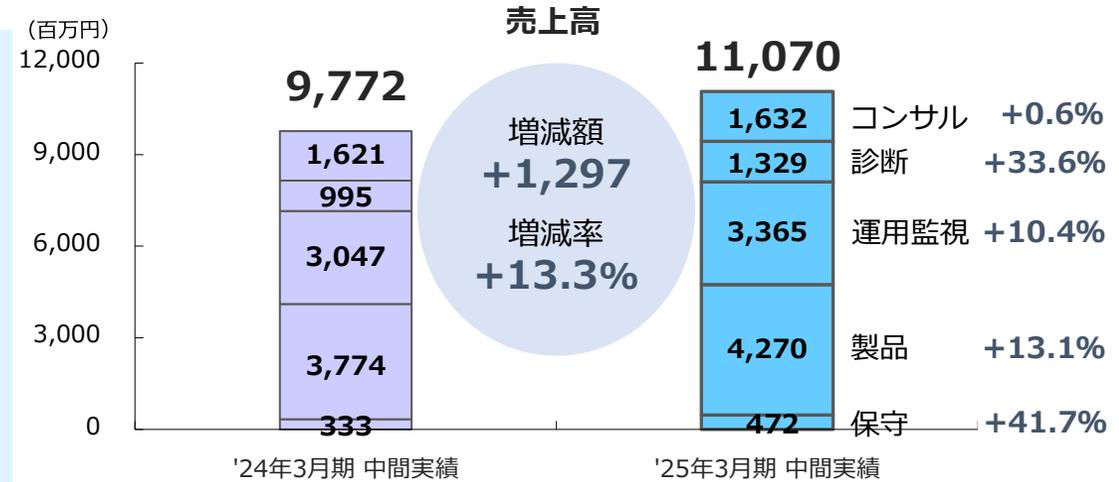
特定企業向けに高度な対策を行う個別監視サービスや内部不正監視サービスなどが伸長したことにより増収

セキュリティ製品販売

サービス妨害型攻撃にも対応したWebセキュリティ対策向け製品や、潜在的な脅威情報を収集・分析する製品などが拡大し増収

セキュリティ保守サービス

クラウド対応製品の拡大等で需要が縮小している影響はあるものの、新規案件の獲得とともに、既存案件等が伸長したことで増収



開発サービスやHW/SW販売などが拡大し増収・増益

開発サービス

大手銀行向けをはじめ、公共関連や製造業向けに案件が拡大したことにより増収

HW/SW（ハードウェア・ソフトウェア）販売

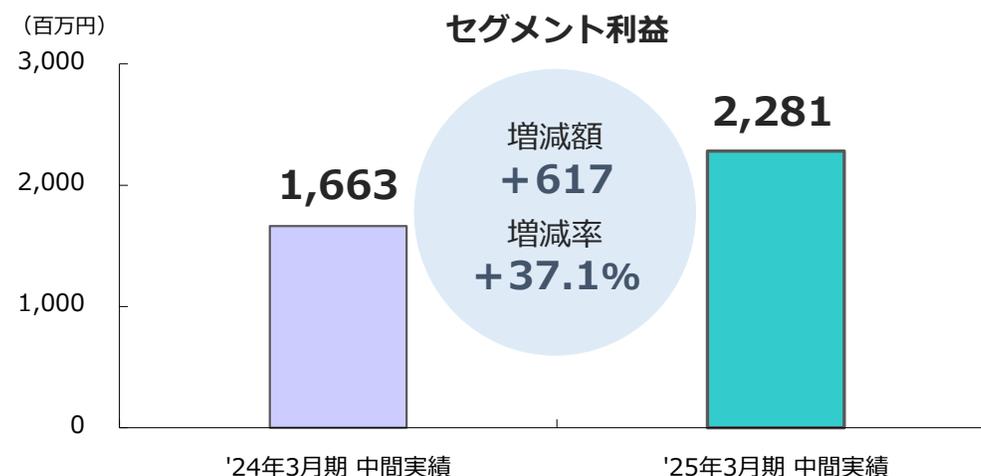
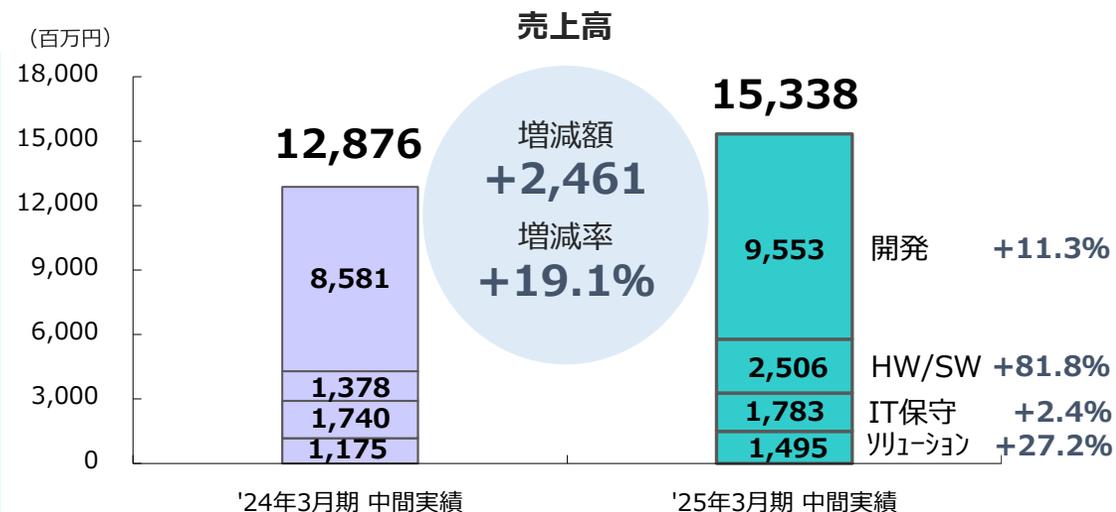
クラウドサービスの拡大等で需要は縮小しているものの、大型案件の獲得等により大幅に拡大したことで増収

IT保守サービス

更新案件等が堅調に推移したことにより増収

ソリューションサービス

サイバーセキュリティ対策にも寄与するクラウドソリューション製品の販売が大きく拡大したことで増収



持続的な成長投資を可能とする安定した財務基盤を維持

(百万円)

科目	'24年3月期末	'24年9月末	前期末比 増減
資産合計	23,770	23,671	△98
流動資産	17,472	17,357	△114
固定資産	6,297	6,313	+15
負債合計	8,365	8,584	+218
流動負債	7,903	7,988	+84
固定負債	462	596	+134
純資産合計	15,404	15,087	△317
現預金	5,494	3,748	△1,746
有利子負債	124	240	+115
自己資本比率	64.8%	63.7%	△1.1p

増減ポイント

資産

【流動資産】

現金及び預金の減少	△1,746
受取手形、売掛金及び契約資産の減少	△967
商品の増加	+1,458
仕掛品の増加	+637
「その他」に含まれる前払費用の増加	+336

負債

【流動負債】

買掛金の減少	△291
未払法人税等の減少	△340
「その他」に含まれる契約負債の増加	+1,033

純資産

【純資産】

利益剰余金の減少	△170
----------	------

棚卸資産の増加などにより営業キャッシュ・フローが大きく減少 セキュリティ事業基盤拡大のための投資を継続

(百万円)

科目	'24年3月期 中間実績	'25年3月期 中間実績
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,831	△995
投資活動によるキャッシュ・フロー	△525	△312
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,763	△433
フリーキャッシュ・フロー	1,305	△1,308
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△445	△1,746
現金及び現金同等物期首残高	6,144	5,494
現金及び現金同等物期末残高	5,699	3,748

発生ポイント

営業キャッシュ・フロー

税金等調整前中間純利益	406
減価償却費	503
のれん償却額	36
売上債権の減少額	966
棚卸資産の増加額	△2,093
法人税等の支払額	△433

投資キャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出	△113
ソフトウェアの取得による支出	△149

財務キャッシュ・フロー

配当金の支払額	△433
---------	------

主な取り組み状況



個別監視を軸とした運用監視サービスの拡大

- ・ 特定顧客向けに高度な対策を行う個別監視サービスの拡大
 - 公共向けに新規導入を開始、新規導入案件を構築中
 - 既存案件の高度化対応を推進
 - 新規受注案件獲得に向けた取り組みを推進
- ・ エンドポイント対策支援サービスの拡大
 - 24時間365日の常時監視サービスとの体制一体化による対応力強化の推進

自動診断・エンジニアによる診断サービスの拡大

- ・ AI自動診断サービスによるWebアプリケーション診断の継続拡大
- ・ 運用支援・コンサルティングによる診断内製化の案件を拡大
- ・ 下期偏重の改善を目指して主要顧客向けに第1四半期からの案件獲得を推進

高単価案件の開発サービスの拡大

- ・ソリューションの導入支援サービスの売上拡大

COMPANY（人事システム）、Salesforce（EC構築）などの案件拡大

先端IT人材へのリスキリングの推進

- ・Salesforce、Okta、M365、COMPANYなどの認定資格者を積極拡大

サブスクリプション型ソリューションの拡大

- ・Okta、Tanium、BOX、Prisma Cloudなどのソリューション製品の販売拡大

2025年3月期 連結業績予想

当中間連結会計期間における業績は概ね順調に推移しているものと判断していること、また当社の業績は第4四半期連結会計期間に偏重する季節性があることなどから2024年5月13日発表値から変更ありません。

売上高、利益ともに増収・増益を予想

来期以降の経費削減に寄与するオフィス更改の一時費用により
営業利益は概ね横ばい

(百万円)

科目	'24年3月期 通期実績	'25年3月期 通期予想	前期比	
			増減額	増減率(%)
売上高	49,477	52,750	+3,272	+6.6
営業利益	2,174	2,180	+5	+0.3
営業利益率%	4.4	4.1	△0.3p	-
経常利益	2,153	2,200	+46	+2.1
経常利益率%	4.4	4.2	△0.2p	-
親会社株主に帰属する当期純利益	1,379	1,500	+120	+8.7
自己資本当期純利益率(ROE)%	9.1	9.5	+0.4p	-

セキュリティ事業、SI事業ともにサービスビジネス拡大により増収・増益を予想
 全社共通費用はオフィス更改や労務費増などにより増加予想

(百万円)

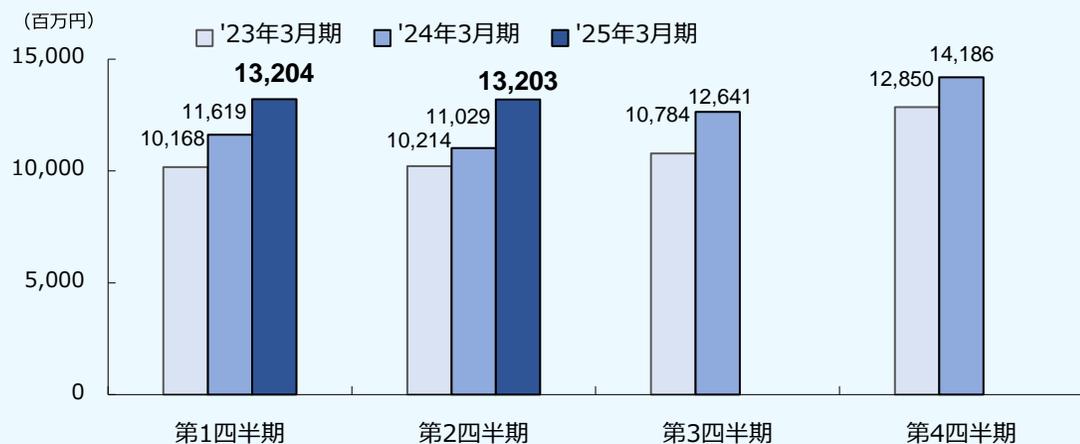
売上高	'24年3月期 通期実績	'25年3月期 通期予想	前期比	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス（SSS）事業	22,159	24,560	+2,400	+10.8
システムインテグレーションサービス（SIS）事業	27,317	28,190	+872	+3.2
合計	49,477	52,750	+3,272	+6.6
セグメント利益	'24年3月期 通期実績	'25年3月期 通期予想	前期比	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス（SSS）事業	2,260	2,780	+519	+23.0
システムインテグレーションサービス（SIS）事業	3,854	4,260	+405	+10.5
合計	6,115	7,040	+924	+15.1
全社共通	△3,940	△4,860	△919	-

(注) セグメント利益は、全社共通費用を組み入れる前の事業にかかる販売費及び一般管理費を含めた利益です。

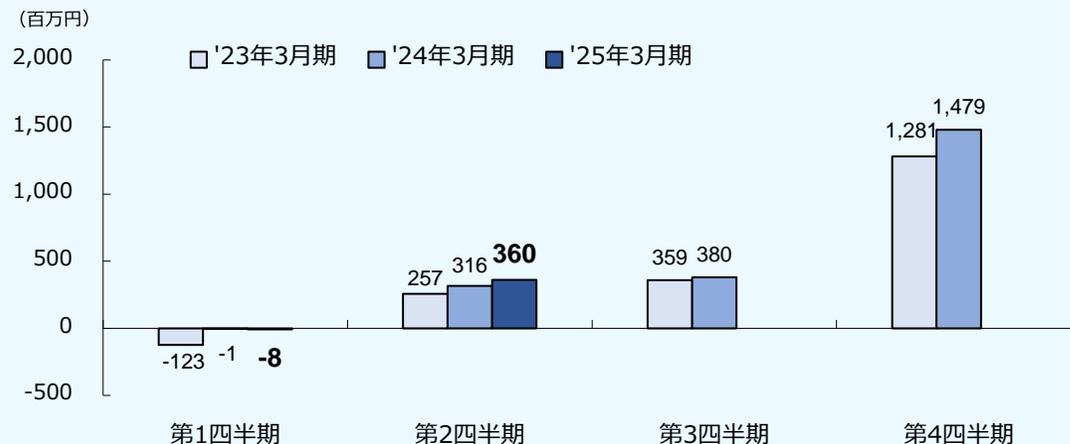
補足資料



売上高



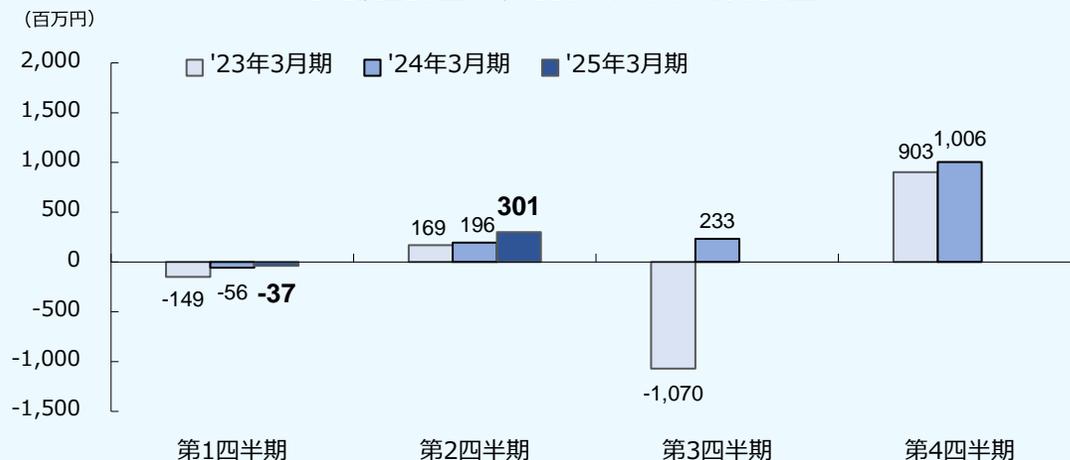
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



連結業績・セグメント別推移（四半期）



(百万円)

連結業績	'23年3月期				'24年3月期				'25年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	10,168	10,214	10,784	12,850	11,619	11,029	12,641	14,186	13,204	13,203		
売上原価	8,292	7,998	8,497	9,619	9,670	8,837	10,266	10,616	11,065	10,657		
売上原価率 (%)	81.6	78.3	78.8	74.9	83.2	80.1	81.2	74.8	83.8	80.7		
販売費及び一般管理費	1,999	1,958	1,927	1,949	1,950	1,876	1,995	2,090	2,147	2,185		
売上高販管費比率 (%)	19.7	19.2	17.9	15.2	16.8	17.0	15.8	14.7	16.3	16.6		
営業利益	△123	257	359	1,281	△1	316	380	1,479	△8	360		
売上高営業利益率 (%)	△1.2	2.5	3.3	10.0	△0.0	2.9	3.0	10.4	△0.1	2.7		
親会社株主に帰属する四半期純利益	△149	169	△1,070	903	△56	196	233	1,006	△37	301		
売上高四半期純利益率 (%)	△1.5	1.7	△9.9	7.0	△0.5	1.8	1.8	7.1	△0.3	2.3		

セキュリティソリューションサービス事業（SSS事業）

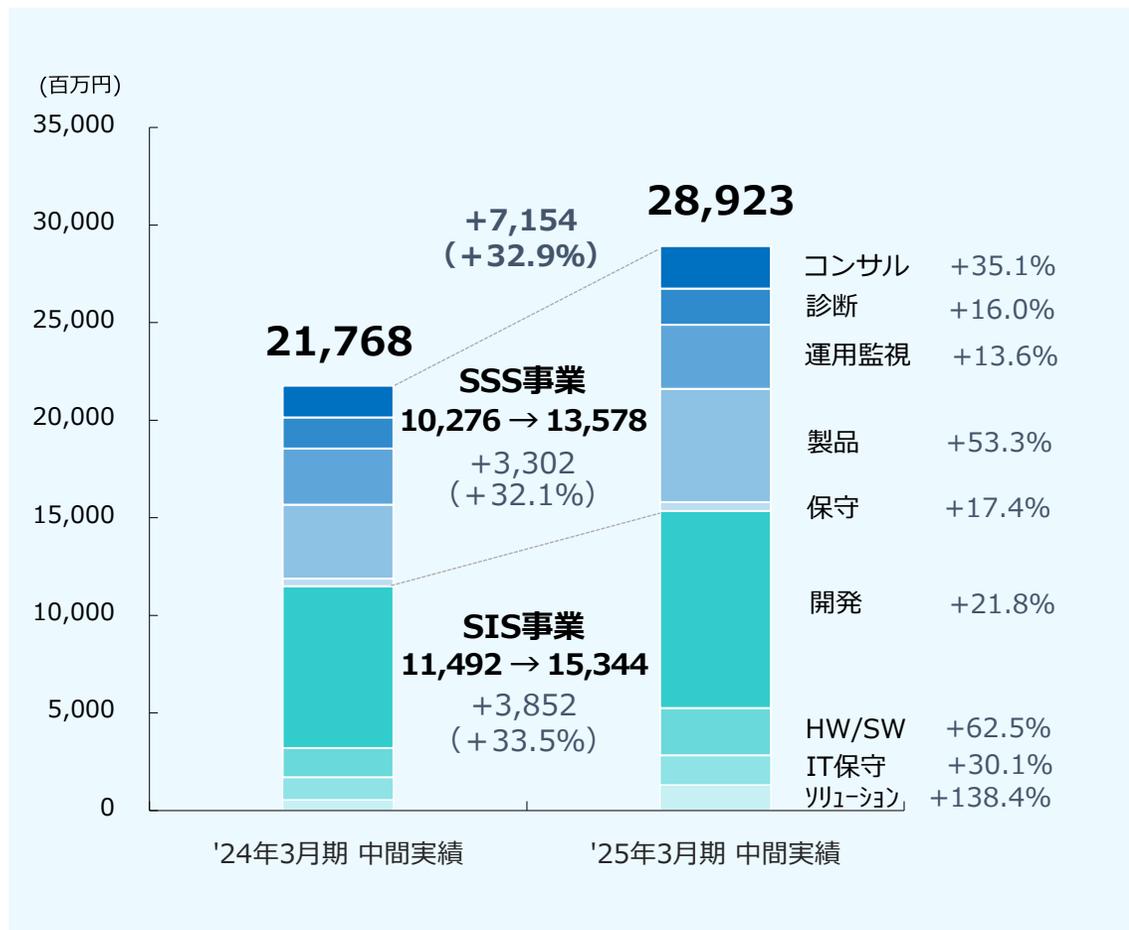
売上高	セキュリティコンサルティングサービス	714	922	956	1,268	740	881	995	1,281	681	950		
	セキュリティ診断サービス	397	556	585	1,036	385	609	558	1,465	641	687		
	セキュリティ運用監視サービス	1,460	1,516	1,511	1,730	1,475	1,572	1,713	1,838	1,676	1,689		
	セキュリティ製品販売	1,761	1,361	1,303	1,577	2,285	1,489	1,751	2,246	2,437	1,833		
	セキュリティ保守サービス	164	143	280	271	175	157	254	281	201	270		
	合計	4,498	4,500	4,638	5,884	5,062	4,709	5,272	7,114	5,639	5,430		
セグメント利益		201	523	538	1,102	173	384	307	1,395	85	308		

システムインテグレーションサービス事業（SIS事業）

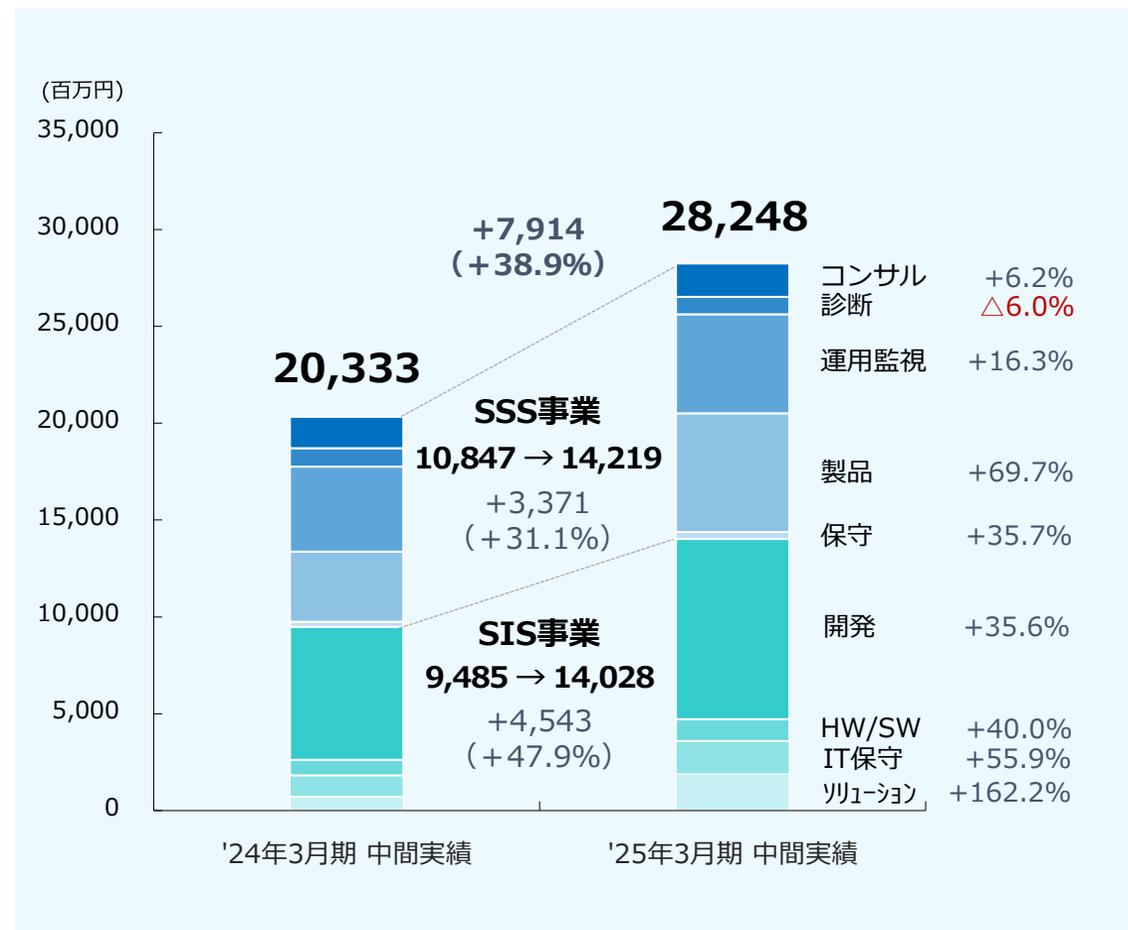
売上高	開発サービス	3,731	4,021	4,158	4,443	4,154	4,427	4,828	4,809	4,500	5,053		
	HW/SW販売	415	496	603	944	692	685	1,030	1,121	1,184	1,321		
	IT保守サービス	961	733	909	696	1,018	722	739	612	1,094	688		
	ソリューションサービス	560	463	475	882	690	485	771	528	786	709		
	合計	5,669	5,714	6,146	6,966	6,556	6,320	7,369	7,071	7,565	7,772		
セグメント利益		731	769	798	1,129	801	861	1,065	1,125	1,012	1,268		

全社共通		△1,057	△1,035	△977	△950	△976	△930	△993	△1,040	△1,106	△1,216		
------	--	--------	--------	------	------	------	------	------	--------	--------	--------	--	--

受注高

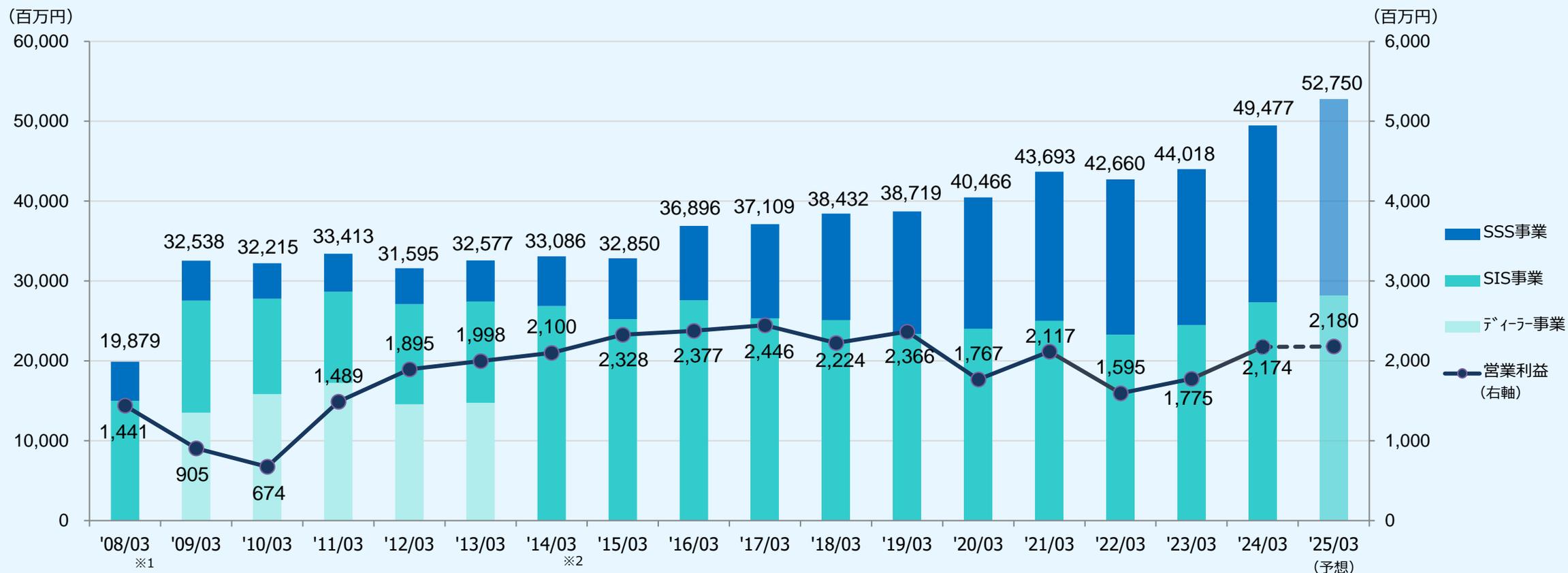


期末受注残高



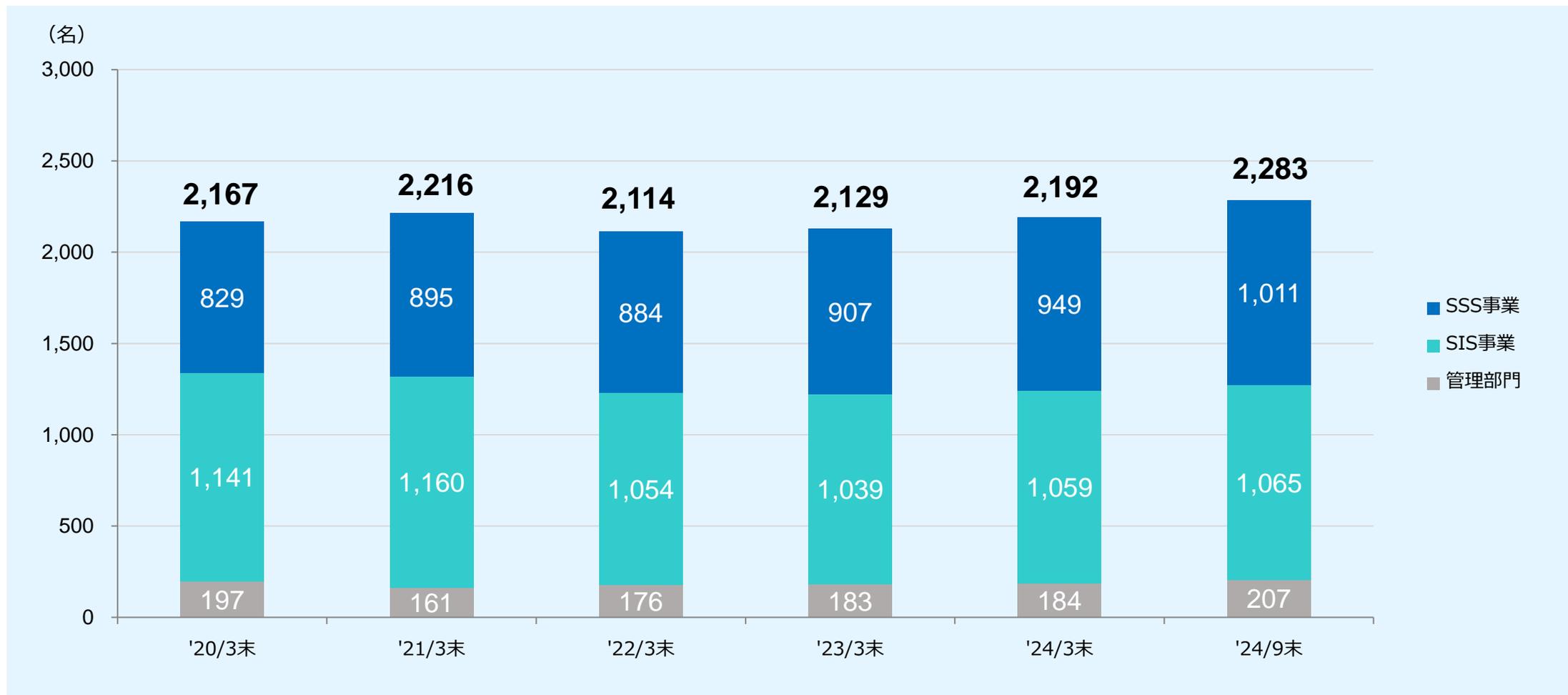
(注) 受注高、受注残高とも単体の数値です。

連結業績推移 (セグメント別)



(注) 1. 旧ラックとA&Iの経営統合初年度である'08年3月期の業績には、旧ラックが決算期を12月から3月に変更したことから旧ラックは'07年1月1日~'08年3月31日までの15ヶ月決算を反映していますが、本資料では、同一期間で比較するため'07年1月1日から'07年3月31日までの旧ラックの個別業績（売上高2,019百万円、営業利益329百万円）を差し引き、1年換算とした場合の想定実績で記載しています。

2. 事業セグメントの変更は'15年3月期からですが、セグメント別の業績を比較するため、その前年度である'14年3月期も同条件で組み替えた場合の想定実績で記載しています。



(注) '22年3月期末の従業員数は、SSS事業において、第1四半期に(株)アジアリザレクションが(株)ラックサイバーリンクを存続会社として吸収合併したことによる減少影響(21年3月末比較:30名)があります。また、SIS事業において、2021年6月28日にアイ・ネット・リリー・コーポレーション(株)の全株式を売却し、連結の範囲から除外していることから、同社の従業員数(21年6月末時点:97名)が除外されています。

会社紹介



(2024年9月30日現在)

会社名	株式会社ラック		
住所	東京都千代田区平河町2-16-1 平河町森タワー		
設立	2007年10月1日 (前身となる旧ラックは1986年に設立)		
代表者	代表取締役社長 西本 逸郎		
資本金	26億4,807万5,000円		
業績	売上高 494億円 営業利益 21億円 (2024年3月期)		
従業員数	連結 2,283名 単体 1,740名		
拠点	東陽町オフィス (東京都) 福岡オフィス (福岡県)	ラックテクノセンター秋葉原 (東京都) ラックテクノセンター北九州 (福岡県)	名古屋オフィス (愛知県) シンガポール支店 (シンガポール)
関係会社	セキュリティ 株式会社ラックサイバーリンク (東京都) KDDIデジタルセキュリティ株式会社※ (東京都) ニューリジェンセキュリティ株式会社※ (東京都) ※持分法適用関連会社	SIサービス 株式会社ラックテクノロジーズ (東京都) 株式会社アクシス (福島県)	
上場市場	東京証券取引所 スタンダード市場 証券コード 3857		

他社に先駆けて始めたセキュリティ対策サービスと 独立系のITベンダーとして幅広い領域のSIサービスを提供

安心・安全なサイバー空間への貢献

SSS

セキュリティソリューションサービス

24時間365日、リアルタイムで監視する国内最大級のセキュリティ監視センターを軸に、大手企業や官公庁向けに総合的なセキュリティ対策サービスを提供しています。

サブセグメント

- ・セキュリティコンサルティングサービス
- ・セキュリティ診断サービス
- ・セキュリティ運用監視サービス
- ・セキュリティ製品販売
- ・セキュリティ保守サービス

売上高構成比



ITによる豊かな社会への貢献

SIS

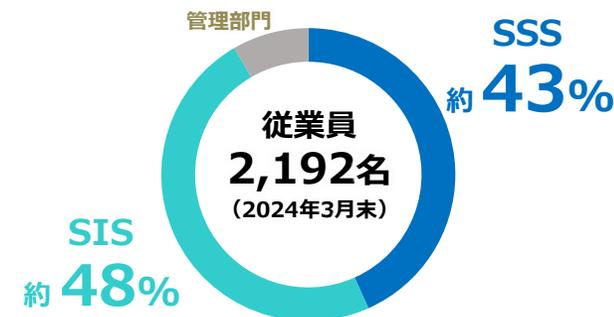
システムインテグレーションサービス

大手金融機関向け基盤システム開発のノウハウを強みに、幅広い業種のお客様へアプリケーションから基盤まで一貫したSIサービスを提供しています。

サブセグメント

- ・開発サービス
- ・HW/SW販売
- ・IT保守サービス
- ・ソリューションサービス

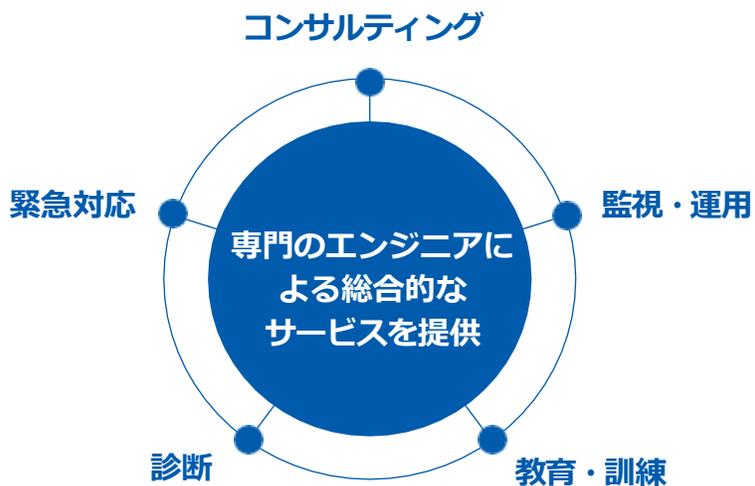
人員構成比



専門のエンジニアによる 総合的なセキュリティサービス

当社は、高度な技術とノウハウを持つ「セキュリティエンジニア」によるサービスを提供できることに特徴があり、エンジニア数は国内最大規模を誇ります。

1995年に診断サービスから国内初のサイバーセキュリティ事業を開始し、サイバー被害に緊急に対応する「サイバー119」、お客様のネットワークを24時間365日リアルタイムで監視する「セキュリティ監視センター」、実践的な教育・訓練サービスを提供する「ラックセキュリティアカデミー」など、お客様の要望に応じてサービスモデルを構築してきました。



長年にわたり磨き続けてきた 現場経験からの高度な知見（インテリジェンス）

サイバー被害が起きた際の現場対応や、サービスを提供するなかで未知のマルウェアや新たな攻撃手法を検知することなどにより、セキュリティ対策の知見を日々蓄積しています。

約30年にわたって磨き続けてきた現場経験力と、独自に得られる最新の脅威情報をセキュリティ対策の高度な知見（インテリジェンス）として活用できることに強みがあります。

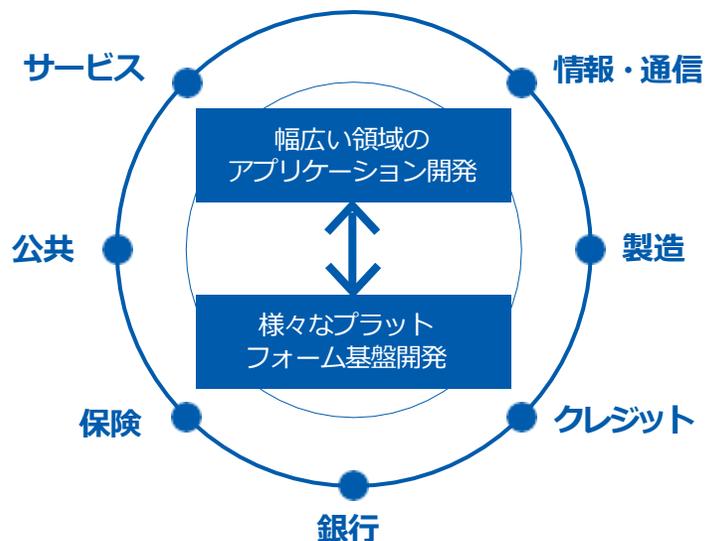


安定した収益を生み出す システム開発

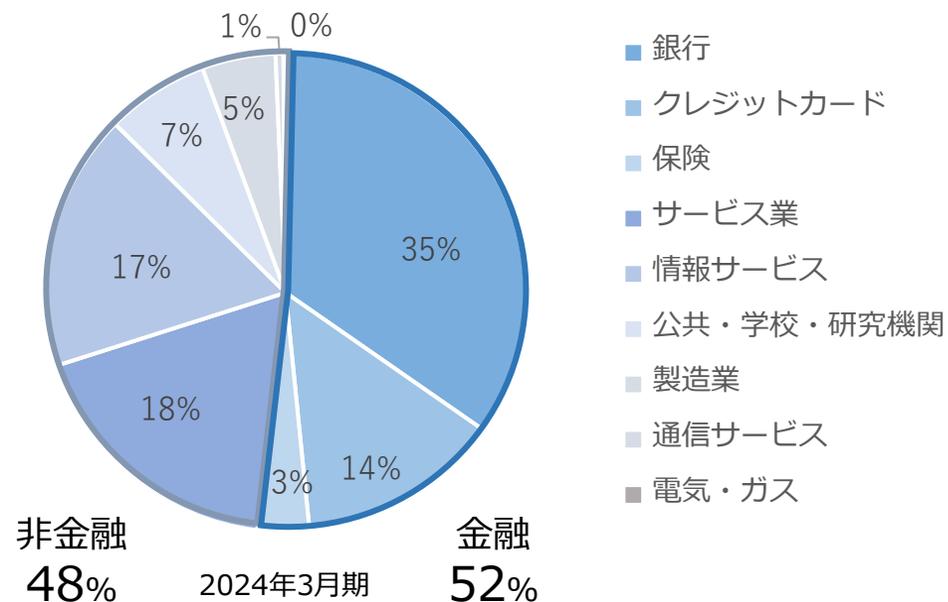
独立系ITベンダーとして、約40年にわたり基盤システムやITインフラを開発しています。

メインフレームからスマートフォンアプリの開発まで、幅広いプラットフォームの基盤構築とアプリケーションの設計構築に精通しています。

メガバンクなどの銀行や大手保険会社などを中心として、大手企業を軸とした確固たる事業基盤を有しており、約230社の顧客企業のうち、上位30社で約70%の売上高を占めています（2024年3月期実績）。



業種別売上高構成比（開発サービス）



大手企業上位の売上高割合（開発サービス）

230社のうち上位30社で

約70%

2024年3月期

既存事業の連続的成長を軸に、新たな価値創造を着実に推進します

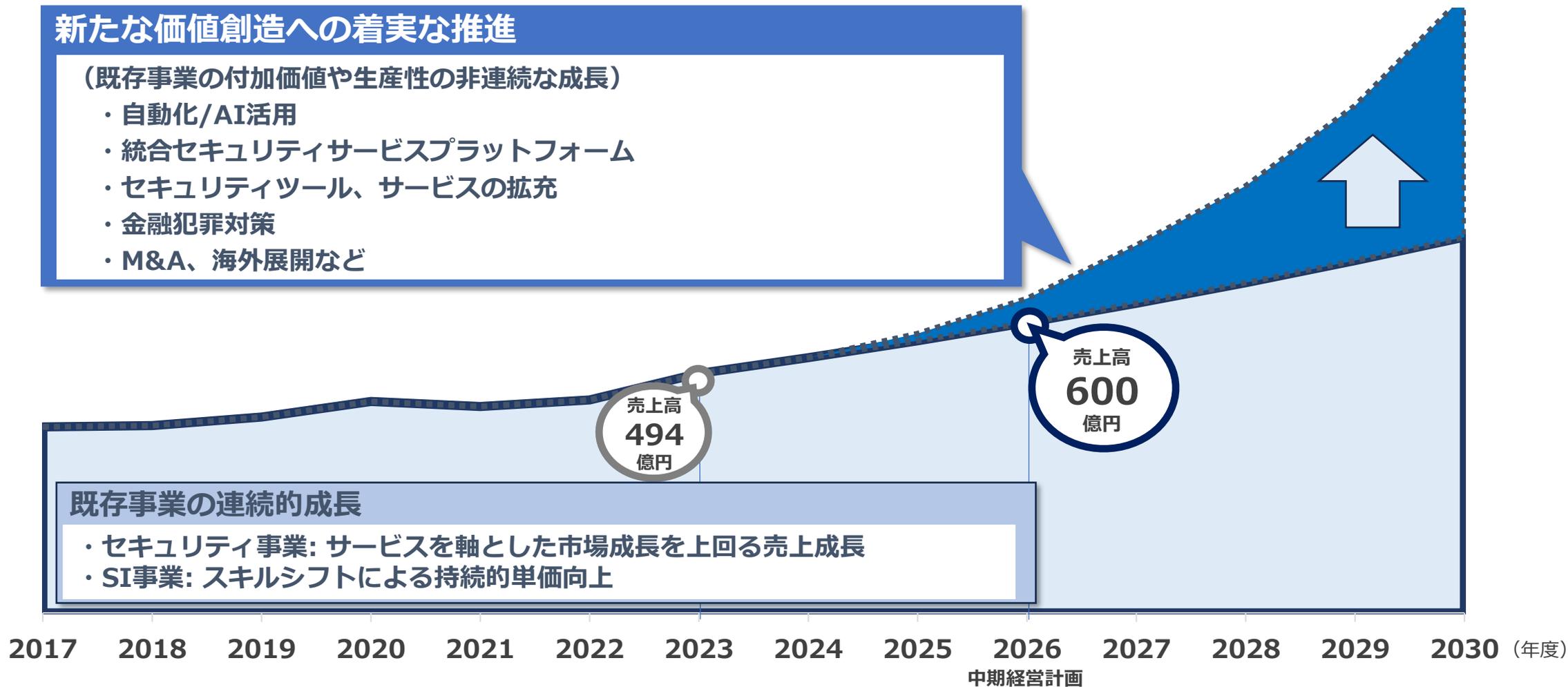
新たな価値創造への着実な推進

（既存事業の付加価値や生産性の非連続な成長）

- ・ 自動化/AI活用
- ・ 統合セキュリティサービスプラットフォーム
- ・ セキュリティツール、サービスの拡充
- ・ 金融犯罪対策
- ・ M&A、海外展開など

既存事業の連続的成長

- ・ セキュリティ事業: サービスを軸とした市場成長を上回る売上成長
- ・ SI事業: スキルシフトによる持続的単価向上



アプリケーション開発プロセスの初期段階からラックの知見とSnykの技術を活かした脆弱性対策を行い、セキュリティリスクの低減を実現

お客様のアプリケーション開発プロセスにおけるセキュリティ対策の強化を支援する「セキュリティ脆弱性アドバイスサービス by Snyk」の提供を開始。

開発プロセスの初期段階からSnykが検出した脆弱性の危険度評価と対応する優先順位をラックがアドバイス。開発の上流段階からセキュリティを浸透させる施策を支援

(注) Snyk : 開発プロセスの上流段階でセキュリティの脆弱性を解決するソリューション製品

セキュリティ脆弱性アドバイスサービス by Snykの特長

高度な分析と的確なアドバイス提供でセキュリティ施策に貢献
お客様のセキュリティポリシーや規定に基づいて、診断のルールや対策基準の策定、診断対象の効果的な選定を支援

脆弱性の対策基準の策定

検出された脆弱性の対策基準（優先度や期限など）の策定を支援。また必要な対応を優先的に実施可能

作成した対応方針への第三者評価を実施

セキュリティの専門家の意見を取り入れながら、検出された脆弱性の対応を進める

AWSセキュリティの規格に準拠し、 ラックの知見を活かしたセキュアなAWSクラウド環境をTerraformで構築

HashiCorp社が提供するTerraformを用いて、AWSセキュリティに準拠したクラウド環境を構築する「Terraform導入・運用支援サービス on AWS」の提供を開始。

構築が完了し、お客様に引き渡した後も、Terraformのセキュリティチェック機能を利用することで、お客様自身で安全なAWS運用を実現。

サービスの概要

Terraformを活用したセキュアなAWS環境構築

AWSクラウド環境構築にHashiCorp社のIaCツールであるTerraformを活用。AWSセキュリティのベストプラクティスに基づき、ラックの知見を活かしたセキュアなAWSクラウド環境を構築。

運用開始後もセキュアなAWS環境を維持

構築完了後、AWSセキュリティのベストプラクティスに準拠したクラウド環境を維持しているかチェックする設定を施した状態で、Terraformをお客様に引き渡すことで、お客様自身でAWSクラウド環境を運用する際にもセキュアな環境を維持。

- (注) 1. Terraform : 開発者がクラウドインフラをコードで記述し、そのコードに基づいてインフラの構築・変更などが行えるツール
2. IaC : Infrastructure as Code. インフラの構成管理をコードで行う手法



※本資料は2024年11月7日時点の情報に基づいて作成しており、記載内容は予告なく変更される場合があります。

※この配付資料に記載されている業績目標、将来の見通しなどの記述はいずれも、当社グループが作成時点で入手可能な情報を基にした予想または想定に基づく記述であり、これらは経済情勢や社会動向等の様々な経営環境の変化によって、直接・間接に影響を受けるものであり、実際の業績、戦略などは、この配付資料に記載されている予想または想定とは大きく異なる可能性があります。

※ LAC、ラック、JSOC、サイバー救急センターは株式会社ラックの登録商標です。その他記載されている会社名、製品名は一般に各社の商標または登録商標です。